

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目： 基盤研究 (A)
 研究期間： 2006-2009
 課題番号： 18203011

研究課題名 (和文)

韓国政府公開資料による日韓基本条約の国際共同研究－脱植民地化論理と冷戦論理の交錯

研究課題名 (英文)

Joint Research with multi-archival documents for the Treaty on Basic Relations between Japan and the ROK (Republic of Korea) in 1965.

研究代表者

浅野 豊美 (ASANO TOYOMI)

中京大学・国際教養学部・教授

研究者番号：60308244

研究分野： 社会科学
 科研費の分科・細目： 政治学・国際関係論
 キーワード： 外交史・国際関係史

1. 研究計画の概要

本プロジェクトは、日韓の若手研究者の連携と協力の国際的ネットワークにより、新公開資料を生かし、今後の日韓関係史の基本書・基本資料集として評価されるに値する成果を生み出すことを目的としている。新公開資料として当初予定していたのは、2005 年度に韓国政府から公開された日韓基本条約 (1965 年) 締結に関する 5 万枚の外交文書であった。しかし、第 3 年目になって日本の外務省も同様の外交文書を 6 万枚という想定外の規模で公開したため、それらも踏まえた研究とすべく、できる限りの対応を行っている。具体的な目的は以下の 2 点である。

(1) 日韓両政府公開資料とアメリカで収集した外交資料とを、さまざまな角度から吟味し比較検証することにより、従来さまざまな意図から誇張され宣伝されてきた断片的「事実」を超越する立体的実証研究を行うこと。通俗的な歴史イメージを打破するような戦後日韓関係の起源と展開に関する研究成果を生み出し、論文集として刊行すること。

(2) 戦後日韓関係の起源と展開に関する重要資料を選別し資料集を刊行すること。

2. 研究の進捗状況

(1)

①日本の国内で研究会を一年に四回ほど重ね、各自の研究テーマを絞り込んだ。各自のテーマが他のテーマとどのような関係を持っているのかという相互関係と役割分担を詰め、成果刊行に向けた最終調整に入った。

②韓国の協力者である国民大学の研究チームと合同でシンポジウムを 2 度開催した。共通の資料を土台としながら、双方の異なる

戦後史イメージそのものを検討することで、例えば、日韓条約が北東アジア地域形成の起源たり得るのか否かなど、豊富な視点を発掘することができた。若手研究者間の対話シンポに当たっては個別報告冊子も刊行した。さらに、ソウルの東亜日報社で韓国外交史学会が開催した日韓基本条約再検討シンポジウムにも、日本側協力者として全面参加した。

③国際的な学会発表を自ら主体的に組織して行った。日本国際政治学会とアメリカのアジア学会 (AAS) において、問題意識を同じくする韓国と米国の研究者を招へいし、それぞれ、部会とパネルを組織し、研究成果の中間報告を行った。研究成果に関するレビューを他の研究者から受けることができた。

④体系だった研究書とすべく章建てをまとめ、ある出版社と具体的な出版交渉に入った。できれば 2 分冊とし、国内外の狭義の政治プロセスについて、政党や官僚機構、有力政治家・官僚というアクターに焦点を当てて論じる研究成果、および、在日韓国朝鮮人の処遇、漁業・領土、請求権と戦後補償などの諸争点を切り口とし、経済的社会的実体と政治史をつないで戦前戦後の脱植民地化を論じる研究成果という形で、2 本立てで成果を取りまとめられないか交渉中である。そうすれば、大まかな構図としての、内政と外交、および、戦前・戦後の脱植民地化過程と冷戦の進行過程という 2 つの関連の構図の中に、戦後日韓関係の政治プロセスと起源とを総合的に検証するという視点で編集ができるであろうと期待している。

(2) 資料集については、全体のサイズ、内容についての出版社との協議を終え、詳細な目録を作りつつ、打ち込み作業に入っている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 論文集の刊行は極めて順調である。個別論文は草稿完成段階に達したものが数人ある。

しかし、資料集の刊行は、少々遅れ気味である。これは、日本側の外交記録が予想外に大量に公開されたため、「うれしい悲鳴状態」が生じたためである。やるべきことが比較の観点から格段に増加した。プロジェクトを何らかの形で延長する方向で努力するが、プロジェクトの現段階での取りまとめとしては、おおむね順調であり、今年度中に数冊の資料集が刊行されるであろう。日本側資料が公開された分、刊行スピードは遅くならざるを得ないが、交渉初期の資料から日韓米3国の資料を踏まえて順次出版される予定である。

4. 今後の研究の推進方策

大量の文書が日本側から公開されたために、文書の比較によって得られる立体的な分析の観点をできるだけ盛り込み、「戦後日韓関係の起源」「戦後日韓関係の争点」(仮)という2冊を1セットとして、秋に出版助成を申請する。

夏休み明けに最初の草稿が出そろった時点で、日韓の若手研究者による公開シンポジウムを東京大学のキャンパスで開催する。研究成果を一般に還元すると同時に、第2日目にはクロズドで日韓の研究者相互の対話を行う。こうした充実した公式・非公式の対話の上に、研究成果を磨き上げていきたい。

資料集については、日本側が選定した資料リストについて、韓国側から意見を求め、できる限り比較の観点に立った資料集としていきたい。

5. 代表的な研究成果 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計27件)

①李鍾元「日韓の新公開外交文書に見る日韓会談とアメリカ」(1)『立教法学』第76号、2009年、1-33頁、査読無。

②吉澤文寿「日本の韓日会談関連外交文書の公開状況について—財産請求権問題を中心に」国民大学『日本空間』(ソウル)第4号、2008年、117-132頁、査読無。

③太田修「外務省外交史料館の現代韓国朝鮮関係資料について」『現代韓国朝鮮研究』第8号、査読有、2008年、43-47頁。

④金敬黙「境界をまたぐ人びと」『季刊現代の理論』Vol.16 査読無 2008年、104-114頁。

⑤木宮正史「韓国現代史研究におけるアメリカ国立公文書館所蔵資料の利用価値と限界」『東アジア現代史とアメリカ国立公文書館(NARA)所蔵資料』韓国国史編纂委員会、

2006年、査読無、127-141頁。

[学会発表] (計10件)

① Toyomi Asano, 'The Japan-Korea Negotiations over Claims Settlement as the Dismantling of Empire in Progress,' The Association for Asian Studies, Session: 'The Origins of the Postwar Relations between Japan and Korea,' Annual Meeting on 28 March 2009 in Chicago,

②木宮正史「안보경제협력 계기로서의 한일 수교 (安保経済協力の契機としての日韓国交正常化)」[以下訳語のみ]、および、長澤裕子「対日講和準備期、日本の在韓財産に対する主張—敗戦国に対する公平性と法的有効性論理を中心に」吉澤文寿「日本における日韓会談関連外交文書の公開状況について財産請求権を中心に」

韓国政治外交学会・国民大学校日本学研究所主催『외교문서공개와한일회담의 재조명 (外交文書公開と日韓会談の再照明)』2008年11月7日、ソウルプレスセンター国際会議場。

③浅野豊美「アメリカ管理下の帝国清算過程としての日韓会談—引揚・在外財産と徴用・補償問題」、および、李鍾元「韓国公開外交文書に見るアメリカと日韓会談」

日本国際政治学会2008年度部会6.『新公開外交文書による日韓国交正常化過程の再検討』(日韓合同部会)2008年10月、つくば国際会議場。

[図書] (計26件)

① Toyomi Asano, 'Between the Collapse of the Japanese Empire and the Normalization of the Relations with South Korea,' "Comparative Imperiology I," ed. Kimitaka Matsuzato, Slavic Research Center: Hokkaido University, 2009. (近刊)

②李鍾元「歴史から見た国際政治学」『歴史の中の国際政治—日本の国際政治学 第4巻』有斐閣、2009年、18頁。

①太田修「日韓財産請求権問題の再考—脱植民地主義の視点から」『韓国併合と現代』(笹川紀勝・李泰鎮[編])明石書店、2008年、21頁。

②西野純也「朴正熙大統領「重化学工業化宣言」の政治力学」・「工業構造改編論」の形成過程を中心に」『慶應の政治学 国際政治』慶應義塾大学法学部[編]、2008年、378頁。

③木宮正史『박정희 정부의 선택: 1960년대 수출지향형 공업화와 냉전체제 (朴正熙政府の選択: 1960年代輸出志向型工業化と冷戦体制)』フタニマス (후마니타스) 2008年、448頁。

④池田慎太郎「アジア冷戦の変容と日本の戦後処理」『東アジア国際政治史』(川島真・服部龍二編)名古屋大学出版会2007年269-292頁。